

長崎県離島の外国語教育と我が国の中等教育における 英語以外の外国語教育の現状と展望

Foreign language education in remote islands in Nagasaki, and now and the future of foreign language education other than English during secondary education in Japan

山崎 吉朗
Yoshiro Yamazaki

一般財団法人日本私学教育研究所
Education Institute for Private Schools in Japan
(4-3-8, Kudan-Kita, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0073, Japan)

要旨:長崎県では離島政策として他県からの留学制度があり、対馬は韓国語、壱岐は中国語の教育が行われている。本調査では、長崎県教育庁、対馬高校、壱岐高校を訪問して、留学制度や現在の状況を伺い、授業も見学した。両校では、弁論大会などでの優勝、検定試験上級の合格など、文字通り全国トップの中国語、韓国語教育が行われている。これは、1年間の教員留学制度、提携している大学からのネイティブ教員の派遣、臨時免許制度、他県からの生徒の経済的負担の軽減など、県の政策が支えている部分が多い。一方、日中、日韓の関係の悪化など政治的な状況が選択者の増減に影響しているという、教育内容の改善だけでは解決しない問題もある。いずれの学校も教員、生徒共に、自校の教育に自信を持っていることが今後に向けての大きな希望である。日本の英語以外の外国語教育政策に多少希望の光が見える今、両校には高いレベルの教育を続けてほしいと考えている。

キーワード: 離島、多言語、複言語、中等教育、アジア言語

Keywords: Remote islands, Multilingual, Plurilingualism, Secondary education, Asian Languages

1. はじめに

「実りの島 壱岐」¹、「^{おっ}な島です。対馬」

壱岐、対馬のホームページ¹にはこのようなキャッチフレーズが載っています。自給自足出来るような豊かな自然に恵まれた壱岐、他とは違うことを体験できる対馬、という意味でしょう。長崎県の離島です。飛行機で、壱岐までは 30 分、対馬までは 35 分で到着します。福岡博多からの船や高速船利用の観光客が寧ろ多いと現地では聞きました。

両島は、外国語教育の世界では高レベルな中国語教育の壱岐、韓国語教育の対馬として知られています。太古の昔から大陸との接点であった両島で、中国語、韓国語教育が行われているというのは自然な流れではありますが、それを支えているのは長崎県の政策です。その調査のために、両島及び統括する長崎県教育庁を訪ねて、どのような教育が行われているのか、どのような制度がそれを支えているのかについて調査しました。

¹ <https://www.city.iki.nagasaki.jp/> (壱岐 2017 年 1 月 20 日閲覧) <http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/> (対馬 2017 年 1 月 20 日閲覧)

2. 長崎の離島留学制度

長崎県のホームページには、「高校生の離島留学制度」のページ²があり、対馬、壱岐のほかに、五島列島の高校の紹介が載っています。対馬高校は、「韓国語で交流する対馬高校 国際文化交流コース」、壱岐高校は「歴史学 中国語を深める壱岐高校 東アジア歴史・中国語コース」と紹介されています。一方、五島列島には3校あり、「スポーツを科学する五島列島スポーツコース」、「人間力をUPする五島南高校 夢トライコース」、「英語で世界と対話する 奈留高校 E-アイランド・スクール」となっています。後者2校は次年度（平成30年度2018年度）開設です。

この長崎の離島留学制度、中国語、韓国語教育の経緯や現状について知るために、2016年2月3日と2017年1月17日に、長崎県教育委員庁高校教育課高校教育班指導主事の岩坪正裕氏を訪ね、2016年には中国語教育を中心に、2017年には韓国語教育を中心にお話を伺いました。

両校の「国際文化交流コース」、「東アジア歴史・中国語コース」はそれぞれ教育特区³の認可を受け、全国から生徒を募集し、県外からの生徒達は地元の民家にホームステイすることを原則としています。ホームステイに対しては県が財政支援を行っています。これが離島留学制度です。この制度の結果、両コースの受講者はいずれも県外の生徒の方が多数で、この制度が中国語、韓国語教育を支えています。

この離島留学制度に加えて特筆すべきは県の教員養成制度です。中国語、韓国語共に教員が現地に1年間留学して学習します。教員本人の希望の場合も、学校推薦の場合もあるということでした。平成29年度（2017年度）が5カ年計画最後の年ということでしたが、すでに十分な教員養成が出来たということで平成28年度に終了したそうです。この報告書を書くために岩坪氏に問い合わせてわかりました。

中国語の場合は、上海外語学院に留学します。昨年（2017年）までに約10名が留学しています。韓国語の場合は、釜山外国語大学かプギョン大学に留学します。昨年までに4名が留学し、5人目が計画されていましたが予算不足で中止となっているということでした。また、中国語や韓国語の教員免許状は留学では取得出来ないの、日本人教員が教壇に立つ場合は長崎県が臨時免許状を発行しています。さらに、ネイティブの教員は県の提携大学から2年から3年任期で派遣され、今回訪問した両校には、若いネイティブの先生がいました。

他県にはないこの政策について、報告書のような冊子は作られていないということでした。教育庁には保管文書としての資料はあり、研究者には公開するということでしたので、長崎県あるいは近隣の県の大学などで、研究対象としてこの政策を扱い、論文や報告書を作成し、記録として残しておくことが必要であると思われました。

長崎県は、中国や韓国に近い場所にあるという立地が中国語や韓国語教育に熱心な環境を作っています。中国系あるいは中国と交流ある企業での実習、さらには多くの中国、韓国の観光客が訪れるハウステンボスでの実習など、身近に、学校で学んだ言葉を実習する場があるというのは大きいでしょう。戦前から中国に修学旅行に行っている程、中国との交流は長い歴史があります。少し古くなりますが、九州、沖縄地区の中国語教育については堀地明氏の調査があります。それによると、九州、沖縄地区では、中国語教育を実施している学校が多かったのは90年代前半ということです⁴。その後数は減少したものの、壱岐高校を筆頭にして、現在でも、佐世保商業高校や佐世保東翔高校などでは中国語が設置されています。2014年の朝日新聞の記事には、「県内の79の高校のうち、英語以外の外国語を教えている高校は15校ある。中国語が14校でもっとも多く、韓国語7校、フランス語1校（複数言語を教える学校あ

² <http://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/shochuko/ritoryugaku/>（2017.1.19.閲覧）

³ 構造改革特区のうち、文部科学省関連のもの。認定されると、学習指導要領に縛られず、地域の特色等を生かした特別の教育課程を編成することが可能になる。

⁴ 「九州沖縄地区における高校中国語教育の現状（堀地明）」2005年度北州市立大学特別研究推進費「九州沖縄地区における高等学校中国語教育の現状に関する調査研究」

り)。」と載っています⁵。

残念ながら、修学旅行の方は、日中、日韓関係の悪化や感染症のサーズ⁶の流行などの影響で、中国や韓国への修学旅行はほとんどなくなってしまったということです。岩坪氏の話では保護者が中国や韓国に行く事に反対するようになり変更になったということでした。現在では、修学旅行は長野のスキー旅行に変更になったところも多いそうです。

2.1. 壱岐高校

2016年2月1日に訪問しました。対応者は、鶴田雅也校長、濱野正義教頭、中島慶太常勤講師です。現在のコースとそこまでの流れを記します。

離島留学制度スタートと同時に、2003年から「原（はる）の辻（つじ）歴史文化コース」が設置されました。背景には島内にある「原の辻遺跡」の存在があります。弥生時代の遺跡としては全国に3つしかない国の特別史跡となっており、「魏志倭人伝」に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。古くから中国大陆や朝鮮半島と交流があった壱岐では、日本最古の船着き場や日本で唯一の人面石など、数々の貴重な遺跡が見つっていますが、発掘が進んでいるのは「2割ほど」と言われています⁷。「原（はる）の辻（つじ）歴史文化コース」は、将来の歴史学・考古学のスペシャリスト育成をめざす専門的なコースとして設置されました。今回の調査対象である中国語教育については、上記コース開設から2年後の2005年から「中国語専攻」が設置されます。「中国語専攻」の設置で、歴史学と中国語を学ぶコースとなりました、名称も2010年からは、「東アジア歴史・中国語コース」となっています。

目標は「幅広い知識と教養を兼ね備えた『真の国際人』を育てる」ことで、コースの説明として、「少人数で歴史学や考古学、中国語をじっくり学ぶことができるコースです。さまざまな体験学習や国内外の史跡の巡検、上海外国語大学での中国語研修などを通して、幅広い教養や国際感覚を身につけることができます」と記されています⁸。

1年次には歴史と中国語の基礎を学び、2年次に歴史学専攻か中国語専攻を選択します。中国語専攻の3年次の目標は「日中の懸け橋となる国際人を育てます」となっています。中国語は1年次には週5時間、中国語専攻になると2年次から週7時間学びます。夏には上海外国語大学における語学研修（8月、13泊14日程度）や現地の学生らとの交流を通して学びを深め、国際感覚も身につけていきます。また、国内の大学における語学研修（8月、4泊5日程度）もあります。

在籍者は高3が2名、高2が3名、高1が9名で、総計14名です。日中関係の悪化で高3、高2は志願者が少なかったということでした。訪問した次の年度（2016年度）は13名入学見込みということでした。今回報告を書く際に壱岐高校に確認したところ、今年は（2017年度）33名が在籍しており、19人が島外ということでした。訪問した時点の倍以上になっています。

2つの授業を見学しました。

高1中国語（9名のクラス、1名欠席で8名） 樊珂（さんか）中国人講師、山口史教諭（国語と中国語担当）

基本的に中国人講師が中国語で授業展開し、日本人教諭がポイントを日本語混じりで解説します。内容は、単語学習、文章理解、発音です。教員が一方的に話す場面はなく、現在文科省が進めている英語教育の方法論を実践しているという印象を得ました。

⁵ 2014年01月01日 朝日新聞朝刊 長崎・2地方 「中韓との縁、反映 県内の15高校、英語以外の3種の外国語教育／長崎県」

⁶ SARS（サーズ）SARS コロナウイルスにより引き起こされる感染症。

⁷ 2017年11月25日 朝日新聞夕刊 1総合 1頁「（西発見）中国語、離島で磨く 九州のスピーチ大会、10連覇中の高校」

⁸ 壱岐高校ホームページ <http://www2.news.ed.jp/section/iki-h/>（2017年1月30日閲覧）

高2 中国語会話（3名のクラス） 中島慶太常勤講師、樊珂（さんか）中国人講師

日本人教員が中国語で授業。中国人講師は補助ということに驚きました。高1より格段に高度な授業展開。生徒達も中国語で応答しています。

教育特区として、学習指導要領の規制が緩和された中国語コースは、日本全体でもこの壱岐高校だけで、その高度な授業にまずは感心しました。県外からの生徒が中心で、インタビューした生徒はホームステイ先ではたいへん親切にして貰っているということでした。

授業の合間程度だったので生徒たちに詳しい話を聞くことが出来なかったのですが、昨年（2017年）毎日新聞の「みんなの広場」には在籍生徒の次のような書き込みが載っていました。

「僕は今年の4月に、長崎県立壱岐高校の東アジア歴史・中国語コースに、離島留学生として島外から入学しました。中国語が勉強できるこのコースで学び、将来は通訳になることが目標です。親元を離れ、里親さんのもとでの生活を始め3カ月が過ぎました。入学当時は本当にやっていけるか不安でしたが、里親さんや先生たちの支えで1学期を過ごすことができました。

（中略）

中国語の授業も本当に理解できるようになるのか心配でしたが、今では簡単なあいさつ程度は話せるようになりました。夏休みには上海語学研修もあるので、とても楽しみです⁹。」

「私は親元を離れて生活することが高校からだとは思ってもみなかった。長崎県立壱岐高校（壱岐市）で学びたいと思っていた気持ちは強かったが、1人で生活することは当初は受け入れがたかった。大抵の人は高校を卒業後、就職あるいは大学への進学のために親元を離れる。しかし私たち離島留学生は他の人より3年早く自立していくという道を進んでいる。

（中略）

食事以外のことは全部やらなければならない。疲れていてもやらなければ、誰もやってくれない。私はその覚悟を持ち壱岐市へ来た。

（中略）

私が住んでいる近くの人たちは、会えば必ずあいさつをしてくれるとても優しい人たちだ。そして一緒に居る先輩方は家族のように思えて、今は毎日の生活が楽しい¹⁰。」

高3の実力の証左として、立命館孔子学院主催 第10回中国語スピーチコンテスト（於：立命館大学）の高校生の部で、高3の1名が最優秀賞を取ったことが挙げられるでしょう。

さらに、ホームページによれば、今年度（2017年度）の成果として次の2つが挙げられていました。

1 九州地区での五星奨中国語スピーチコンテストで10連覇

2 12月9日（土）京都外国語大学で行われた全国中国語スピーチコンテストで6位入賞。4年連続全国大会入賞。

訪問した際の樊珂（さんか）中国人講師はすでに帰国し、上海外国語大学院 国際文化交流学部より蔡慧云（さいけいうん）中国人講師が着任したとホームページに記されていました。専攻は、外国人のための中国語教育で、次のような挨拶文が載っていました。

「皆さん、こんにちは。上海外国語大学院 国際文化交流部から参りました蔡慧云と申します。

私は日本に来る前に、一年間、外国人に中国語を教えていました。私は小学時代からずっと日本のアニメが好きで、ずっと日本に行きたくて、日本の文化を深く理解するために、大学二年生の

⁹ 2016.07.25 毎日新聞東京朝刊 5頁「充実している離島留学」

¹⁰ 2017.06.10 毎日新聞東京朝刊 10頁「親元離れ感じる周囲の優しさ」

時ネット授業で日本語を勉強しました。今回壱岐に来ることができて夢を実現できました。」
壱岐高校の中国語教育は訪問時のレベルを継続しているということがわかりました。

主な進学先は下記の通りです。

立命館大学文学部人文学科東洋研究学域、経営学部経営学科

関西大学外国語学部外国語学科中国語専攻、福岡大学人文学部東アジア地域言語学科

長崎県立大学国際情報学部国際交流学科、経済学部中国語インテンシブ

上海外国語大学中国語学科経済貿易専攻、各種専門学校、ハウステンボス など

2.2. 対馬高校

2017年1月18日に訪問しました。壱岐同様、長崎空港から飛行機で向かいました。行き帰り共に悪天候の場合は引き返すという条件付きでの飛行でしたが、風が強かったものの曇る程度で、天候に恵まれた訪問となりました。

対応して頂いたのは、鶴田栄次校長、田川麻衣子教諭（英語、韓国語（臨時免状））、石田教諭（英語、韓国語（臨時免状）、3年担当）です。同校には普通科、商業科、普通科国際文化交流コースがあり、国際文化交流コースで韓国語を学びます。

訪問した時の在籍数は下記の通りで、全体が49名です。教育庁を訪問した時に、壱岐高校以上に、対馬高校は募集が順調であると言われたように、壱岐高校より多い人数が受講しています。4月からの新入生も22名ということでした。

1年生 22名（男子2 女子20）

2年生 18名（男子2 女子17）

3年生 9名（男子0 女子9）

島内からの生徒は9名で、島外から40名です。

国際文化交流コースは平成15年（2003年）設立です。壱岐高校同様に、教育特区を申請しており、全国から受験可能になっています。

壱岐高校の中国語とは異なり、すべて韓国人常勤講師による授業で、日本人教師はTAとして授業の補助をしていました。韓国文化や歴史の授業が（1年次：週4時間 2年次：週8時間 3年次：週8時間）行われています。

この1年生22名の授業を見学させて頂きました。韓国人常勤講師の先生が時折日本語を交えながら進行していました。常に生徒と対話する授業で生徒達も積極的に答えています。生徒が答える単語や表現を素早く板書し、ハングルの確認をしながら授業を進めていました。日本人教師は補助です。男子は僅か2名で、女子の積極性が目立ちましたが男子も熱心に学習していました。韓国語を話す楽しさがこちらにも伝わるような積極的な生徒達でした。インターネットの時代ですので、今後は遠隔で東京や関西の学校との交流が出来ないだろうかという提案を最後にして今後の課題となりました。早い時期に実現したいと考えてやりとりを続けています。

同校では、授業以外にも韓国の専門家による年5回程度の出張講義もあります。

また、韓国での語学研修もあり、姉妹校もある釜山で行われます。費用は下記の通りで、県から補助が出ているということでした。

1年次： 釜山研修 2泊3日 ホームステイ1泊 自己負担2万円程度

（姉妹校 釜山観光情報高校との交流・市内観光）

全学年対象（希望者）： 長崎県主催 釜山語学研修（釜山外国語大学）約2週間 自己負担額 3万5千円～4万円程度

韓国語の検定試験は韓国で作られている TOPIK、日本で作られているハングル検定がありますが、どちらの試験でも上級の合格者を出しています。平成 28 年度、27 年度の結果を表にしておきます。TOPIK は 1 級が初級で、最上級が 5 級になっており、3 級以上は韓国語の大学に進学が可能です。高校 2 年生の段階で合格しているのがわかります。

平成28年度在校生の資格取得状況

	TOPIK					ハングル検定			
	上級		中級	初級		準 2 級	3級	4級	5級
	5級	4級	3級	2級	1級				
1年 (18名)				3名	2名		1名	3名	4名
2年 (9名)			4名				1名	6名	
3年 (13名)	2名	3名				2名	1名	3名	
合 計	2名	3名	4名	3名	2名	2名	3名	12名	4名

平成27年度在校生の資格取得状況

	TOPIK					ハングル検定			
	上級		中級	初級		準 2 級	3級	4級	5級
	5級	4級	3級	2級	1級				
1年 (11名)				1名	7名				8名
2年 (13名)		1名	2名	2名	3名		2名	6名	3名
3年 (9名)	1名	3名			1名	1名	3名	2名	3名
合 計	1名	4名	2名	3名	11名	1名	5名	8名	14名

コースが開設された平成 15 年から 28 年までの進学先は下記の通りで

(4) 高校卒業後の進路（平成 15～28 年度）

区分	数
1 韓国大学進学	29
2 韓国語学堂進学	10
4 4年大学進学	114
5 短大進学	5
6 専門学校進学	16
7 就職	44
8 就職進学	3
9 その他（未定、家事手伝い、アルバイト）	8
卒業生総数	229

具体的な大学や就職先は下記の通りです。

平成28年度卒業生の進路状況

- ◆ 進学 ソウル市立大学校1
ソウル中央大学校1
釜慶大学校語学堂1
成均館大学校語学堂1
立命館大学1 福岡大学1
西九州大学1 九州産業大学1
佐世保高等技術専門学校1

- ◆ 就職 就職4 (株) ホテル日航福岡、(株) LEOC、休暇村協会休暇村志賀島 社会福祉法人 福岡福祉会

平成27年度卒業生の進路状況

- ◆ 進学 釜慶大学校1 東亜大学校1 釜慶大語学堂1 同志社大学1 日本大学1 長崎短大1
- ◆ 就職 就職2 (大丸別荘 EQ I ケイズグループ) 公務員1(長崎県警)

平成26年度卒業生の進路状況

- ◆ 進学 ソウル市立大1 釜慶大学校5 釜山外国語大1 ソウル市立大語学堂1 釜慶大語学堂2
- ◆ 就職 就職3 (イデックス LEOC サイキ)

また、福岡大学人文学部東アジア地域言語学科、立命館大学文学部人文学科東アジア研究学域への推薦枠や、対馬市職員採用枠があります。職員枠については、韓国の大学での4年間就学あるいは2年間就学でTOPIK5級取得が条件になっています。

壱岐高校同様、様々なコンクール等で優秀な成績をおさめています。平成29年までの成果の一部を挙げておきます。レベルの高さがわかります。

平成26年 3月

「第7回クムホ・アジアナ杯話してみよう韓国語高校生大会」(全国大会)

韓国語スピーチ部門 最優秀賞

平成26年11月 県民表彰 特別賞功労賞 受賞(長崎県)

平成27年2月 優良児童生徒表彰 受賞(長崎教育委員会)

平成28年6月 「第44回韓国語弁論大会」韓国大阪青年会議所主催
ビギナー部門最優秀賞

平成29年6月 「第45回韓国語弁論大会」韓国大阪青年会議所主催
ビギナー部門最優秀賞、優秀賞

最後に留学制度を支える里親、寮について説明しておきます。下記のようになっています。

(1) 里親

- ・ 一般家庭へのホームステイ (平成29年度 里親数6軒)
- ・ 1人部屋(3食付き)
月額 70,000円自己負担40,000円(光熱費を除く)(※長崎県と対馬市から計3万円の補助あり)

(2) 寮

- ・ 対馬高校桜ヶ原寮への入寮 (教員が舎監として交替で宿泊し、寮生の支援や指導を行います)
- ・ 2人部屋(3食付き)
- ・ 月額 40,000円

県及び対馬市からの補助が大きいです。学生数が多く里親だけではまかなえないので寮を設けているということでした。なお、後述するように対馬はそれぞれの町の行き来にも山を越えていかなければならず交通の便がたいへん悪い地域なので、対馬に住んでいても北の方だと(対馬高校は南の方)通うことが出来ないので寮にいるということでした。

壱岐高校同様、生徒たちと話す時間はなかったので、朝日新聞に掲載された離島留学の生徒達の記事載せておきます¹¹。

¹¹ 2014年01月01日朝日新聞朝刊 長崎・1地方「(教育2014 隣語ガブリ!) 対馬高、韓国への一歩 /長崎県」

釜山の釜慶大に進学した卒業生の話です。

「韓国語が勉強したいなら、対馬高校がある」

佐世保市の中学に通っていた田中さんは、驚く両親を残し、対馬高校に離島留学することにした。

(中略)

入学後、韓国語の流行歌を歌う K ポップのコンテストに出場した。3 年生のとき、九州地区予選で最優秀賞を獲得し、東京・新宿で開かれた「日韓交流おまつり」にも出場した。

韓国大使館主催の作文コンクールでは最優秀賞を獲得。韓国の大学に進むため、韓国語能力試験 (TOPIK) に向けた勉強も重ね、3 年生のときに奨学金支給の対象にもなる 4 級に合格した。

昨年 12 月、母校を再訪し、在校生に講演した。「他国からの留学生は自分の国についてよく知っていて、それを外国語で伝えることができる。高校時代にしっかり勉強することが大切です」と力強く語りかけた。

次は、在学で韓国の大学を希望している高校 2 年生です。

K ポップのファンで、韓国語を学ぶため離島留学した。すでに韓国の大学に進学できる TOPIK3 級を取得したが、志望するソウルの大学に必要な 5 級に向けて勉強を続けている。「大学卒業後は韓国で働きたいので、就職先の多いソウルに行きたい」と話す。

熊本県出身。離島留学をしたことで、自分が変わったと感じる。中学までは人前に出るのが苦手で、自分の意見もはっきり言えない「へたれだった」と笑う。今は韓国語弁論コンテストなどに出場。国内の中高生 9 人がソウルに派遣されたダンス合宿にもオーディションで選ばれ、参加した。

将来、どんな仕事に就くかは未定だが、「他の人がやっていないことに挑戦したい」。

この生徒は、この記事の後、3 月 8 日に予選を含めて 3 部門に 476 人が参加した「クムホ・アジアナ杯 話してみよう韓国語 高校生大会」(韓国大使館韓国文化院など主催) のスピーチ部門で最優秀賞を受賞しています¹²。

2.3. 壱岐、対馬について

両方の島を訪問して、地理的には全く違う二つの島だということがわかりました。

壱岐は比較的平坦で車を使えば島の中での行き来は簡単です。弥生時代から栄えていたという太古の昔からの歴史を感じる島です。海の幸だけでなく、牛、米、野菜類、焼酎等、壱岐だけですべて自給自足出来る産物に恵まれているという印象を持ちました。

一方、対馬は、それぞれの地域が入江の回りで発展して独立しています。隣町に行くのにはすべて山越えをしないといけません。今回タクシーで対馬を回りましたが、すぐに山の中に入り、山を越えると海が広がり小さな漁船が停泊している町に出ます。すぐにそこを抜けてまた山の中に入りということを繰り返して移動しました。自動車道が作られてようやくこの状態ですから、その前は孤立して、歩いて何時間もかけて隣町に行くという状態だったのかと思われます。海と共に生活が成り立っていたのでしょう。タクシーの運転手さんの話では、子ども減少による小中の閉鎖や合併で徒歩では通えなくなる生

¹² 2014 年 03 月 31 日朝日新聞朝刊 熊本全県 1 地 「(インタビュー 今週のこの人) 高校生の弁論大会で最優秀賞・蓮田なつみさん／熊本県」

徒もいて、バスでの送り迎えに加え、場合によっては一人でもタクシーで送り迎えしている地域もあるということでした。その位それぞれの町の行き来が難しいのです。

対照的な地理条件の島で、中国語、韓国語教育が熱心に行われていました。前述のように、インターネットの時代ですので何とか遠隔で、東京や関西の学校との交流が出来ないだろうかと考えて両島を後にしました。今後の課題です。

3. 中等教育における英語以外の外国語教育の現状

最新の中等教育における英語以外の外国語教育の現状と、それを巡る国の政策の変化について記しておきます。

文科省は国際交流等の調査の中で英語以外の外国語教育についての調査も行っています。この調査は、昭和 61 年度から隔年で行われ、今回は 15 回目になります。最新の調査は平成 27 年度で、平成 28 年 5 月 1 日現在の調査です。グラフとデータを紹介します。

2 つのグラフは、「平成 27 年度 高等学校等における国際交流等の状況について¹³⁾」の「8 英語以外の外国語の科目を開設している学校の状況について（平成 28 年 5 月 1 日現在）」に掲載されている開設学校数と言語別の開設学校数のグラフ¹⁴⁾です。

まず fig1「開設学校数」は、残念ながら平成 17 年以降は年々微減しています。今回の調査では、10 年以上前の平成 15 年度に近い数字になって来ています。2020 年の東京オリンピックを前にして寂しい数字ではありますが。次回の調査で向上することが望めます。

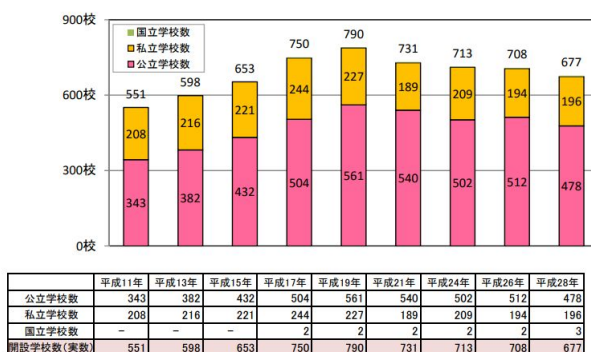
fig2「言語別の開設学校数」でも、平成 19 年度をピークに微減しており、平成 17 年と同じ位の数字になっています

fig 3「各言語の履修者数」については数字だけが発表されているので¹⁵⁾こちらでグラフにしました。中国語の履修者が大きく減っているのがわかりますが、学校数と多少異なり、履修者数は平成 24 年がピークになっています。学校数が減ったものの履修者は増えていたことがわかります。残念ながらその後、平成 26 年、28 年と特に中国語は大きく履修者が減っています。

Fig1 開設学校数

8 英語以外の外国語の科目を開設している学校の状況について
※平成11年～15年は私立及び公立のみ調査対象としている

(1)開設学校数の推移



¹³⁾ http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1323946.htm （2017 年 1 月 30 日閲覧）

¹⁴⁾ 「平成 27 年度 高等学校等における国際交流等の状況について」13 頁

¹⁵⁾ 「平成 27 年度 高等学校等における国際交流等の状況について」39 頁

Fig2 言語毎の開設学校数

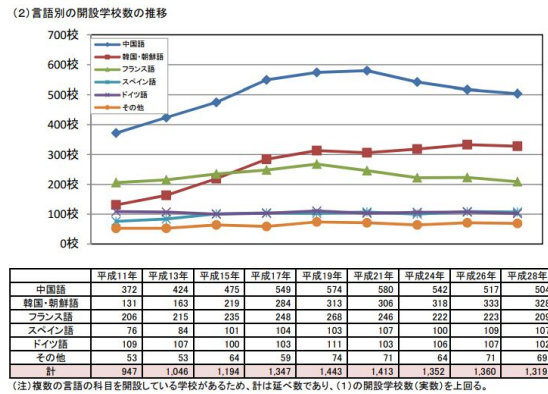
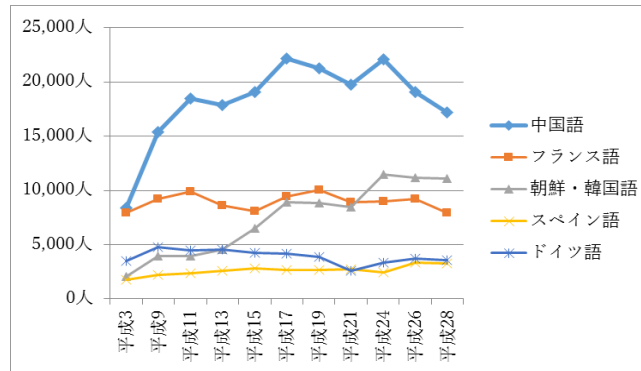


Fig3 言語毎の履修者数



このように英語以外の外国語教育の数字がなかなか向上しない中、ここ数年、多少なりとも文科省の視野の中に英語以外の外国語が入って来たと思われます。その点について報告します。

1 大学入学共通テスト

2020 年度に大学入試センター試験は廃止され、大学入学共通テスト（以下共通テスト）が実施されます。特に英語では、共通テストと 4 技能評価（読む・聞く・書く・話す）民間試験のどちらか、あるいは両方を試験として課すことを各大学が決めることになります。大学入試センター試験の後継テストで英語の 4 技能の民間試験が採用されるというのはこれまでにない大きな改革だと言っていいでしょう。さらに計画レベルでは、2024 年度以降は英語の共通テストは廃止され、完全に 4 技能評価の民間試験のみの実施となる方向になっています。

英語以外の 4 言語（フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語）は、「英語以外の外国語の試験については、平成 35 年度までは、英語と同様、共通テストにおいて実施する。」と明記されています。4 技能評価は、「英語以外の外国語の取扱いについては、英語の詳細な制度設計の検討状況を踏まえ、引き続き検討する。」と記されています。どのように 4 技能を求めてくるのかはまだ見えませんが、とにかく共通テストが維持されたということはたいへん大きなことだと考えています。

さらに、2017 年 1 月 29 日に発表された「平成 30 年 2 月に実施する大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）について¹⁶⁾」には英語以外の外国語についての記述があります。資料 2「平成 30 年 2 月に実施する大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）（外国語科「英語」）の趣

¹⁶⁾ <http://www.dnc.ac.jp/news/20180129-01.html>（2017 年 1 月 31 日閲覧）

旨について」です。「1.大学入学共通テストの実施と試行調査（プレテスト）（外国語科「英語」）の位置付け」の3番目の項目に、「③「英語」以外の外国語科目について」があり、下記のように記されています¹⁷。

- ・ 外国語科の「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」の試験については、「大学入学共通テスト実施方針」において、センターが作問する試験を実施する方向性が示されたところです。
- ・ 出題方法等については「英語」に準ずることとされており、今回の試行調査を経て得られた作問の方向性に準じて検討を進めていきます。

大学入試センターとしては初めての発表でした。文科省の発表通り、今後も維持されることが明記されたことになります。

この共通テスト維持に関しては積極的に動きました。新しい大学入試の制度について国民から広く声を集めるパブリックコメント募集の際には、特にフランス語の関係者に呼びかけて意見を送ってもらったのです。共通テストでの英語以外の4言語の維持を訴えました。文科省が公表したパブコメの結果報告には「とくにフランス語からの意見が多くみられた」と記されました。声は国に届くのです、声をあげれば。今後も、1%の可能性があれば国に働きかけをしていきたいと思います。

2 外国語教育拠点事業

JACTFLの「変化の兆し」¹⁸で書きましたように、英語だけであった文科省の拠点事業が改善されました。「多言語」として3件の募集があり、慶應義塾大学、名古屋外国語大学、大阪大学が採択されました。責任者はすべてJACTFL会員です。また次年度も「グローバル化に対応した外国語教育推進事業（新規）」で予算が確保され、「英語以外の外国語について新学習指導要領に基づいたカリキュラムや教材の開発等を支援」と明記されています。本原稿の時点では募集要項等正式な発表はまだされていませんが、予算が確保されたことは確認しています。

3 第3期教育振興基本計画

文科省の政策が多言語に向かっているという楽観的な言い方は出来ませんが、2018年度から実施される第三次教育振興基本計画の案には、英語以外については一歩前進かと思われる記述があります。これまで英語一辺倒だった外国語教育に関して「社会の持続的発展のための多様な努力」として「英語をはじめとした外国語教育」を推進するという文言が入っています。「英語をはじめとした」という記述の意義は大きいです。文科省が英語以外の言語教育も視野に入れていると言っても言い過ぎではないでしょう。

さらにこの文言について、2017年1月31日に開催された中央教育審議会総会（第115回）で、日比谷潤子委員（国際基督教大学長）から重要な発言がありました。注釈で載っているCEFRの説明について理念が全く書かれていない点をまず指摘しました。CEFRの理念には複言語主義があり、様々な外国語を前提として書かれている。英語のためだけではない。さらに「英語をはじめとした外国語教育」という文言はよいが、英語一辺倒の日本の外国語教育でよいのか。という趣旨の発言でした。以前の総会でも亀山郁夫委員（名古屋外国語大学長）が、せっかく英語をはじめとしたと書いてあるのに中身は英語の事しか書いていない。多言語について書いた方がよいのではという発言もありました。教育振興基本計画は次の3月5日の総会で決定して、政府閣議に回ります。中身に少しでも英語以外の外国語についての記述が入るのか注視したいと思います。

¹⁷ 「資料2「平成30年2月に実施する大学入学共通テスト導入に向けた試行調査（プレテスト）（外国語科「英語」）の趣旨について」3頁

¹⁸ 山崎吉朗、2016、「変革の兆し」『複言語・多言語教育研究』第4号、JACTFL、pp.169-174

4. おわりに

2013 年の、日本最南端の中国語教育実施校である石垣島の八重山商工高校に始まり、2014 年の長崎県での調査を経て¹⁹、2016 年の壱岐高校での中国語教育、2017 年の対馬の韓国語教育で、九州地区の離島における中国語、韓国語教育の第一回目の調査を完成することが出来ました。スタートラインに立ったという思いです。それぞれ実施している理由や政策は違いますが、共通しているというのは生き生きとした、その言語を使えることが出来る授業です。

結果的に、3 つの学校を訪問するのに足かけ 4 年間かかりました。なかなか遠方の学校を訪れることは難しいです。心配なのはこれが継続して実施されていくのかどうかです。さまざまな実績を挙げているのは、今回の壱岐、対馬で見たとおりですし、英語一辺倒の日本の外国語教育の中での高いレベルでの中国語、韓国語教育は今後ますます重要になると我々は思っていますが、大きな流れの中で潰されないことを切に願います。その意味でも再度この 3 つの学校を訪れ、どのような成果を挙げているのかを継続して追跡することが重要だと思われます。また生き生きとした生徒達を見に行きたいと強く思います。

そのような生き生きとした生徒達が安心して勉強出来る環境を作るように、国の外国語教育政策に関して、今後も傍観するだけではなく、さまざまな要望を発信していきたいと思っています。

参考文献

- 堀地明、2005、「九州沖縄地区における高校中国語教育の現状」2005 年度北州市立大学特別研究推進費 p.107-124
- 山崎吉朗、2014、「沖縄、長崎における複言語教育の現状・展望」『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 ―成果報告書（2014）―』、pp.99-111
- JACTFL 編『複言語・多言語教育研究（第 1 号から 4 号）』（2013 年から 2016 年）一般社団法人日本外国語教育推進機構 JACTFL
- 山崎吉朗、2015、「声をあげる」『複言語・多言語教育研究』第 3 号、一般社団法人日本外国語教育推進機構 JACTFL、pp.107-127
- 山崎吉朗、2016、「変革の兆し」『複言語・多言語教育研究』第 4 号、同機構、pp.169-174

執筆者連絡先:yamayamay@me.com

本稿は科学研究費助成事業基盤研究（B）「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」（2015 年度-2017 年度、研究代表者富盛伸夫、研究課題/領域番号 15H03224）の研究成果のひとつとして公開するものである。

¹⁹ 山崎吉朗、2014 年、「沖縄、長崎における複言語教育の現状・展望」、『アジア諸語を主たる対象にした言語教育法と通言語的学習達成度評価法の総合的研究 ―成果報告書（2014）―』、pp.99-111.